

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (DPUB)

ニュースレター第7号 (2018年1月)

道路運輸開発省の取組に期待

2018.01.24

運輸省の障害者副委員会が1月22日開催され、2018年度の活動計画が検討され承認されました。障害者権利法の宣伝や空港・航空会社での障害者雇用の促進、アクセシビリティ調査の実施、バスや鉄道の障害者利用の促進など、様々な活動が実施されることになり、JICA・DPUBには職員の意識改革、アクセシビリティ向上などに対する研修が期待されています。障害者副委員会とは、障害者団体の代表と行政官が障害者施策について協議するために各省に設置された正式な行政委員会です。本委員会を通し、障害者権利法や障害者国家プログラムの実施が期待され、年度末には活動評価も行われる予定です。障害者権利条約によって規定された障害者政策委員会が、この様にモンゴルで確実に実施されていることに大きな進歩を感じます。DPUBも活動計画にできるだけ協力し、交通機関や道路・歩道が障害者の社会参加の妨げにならないように、活動を進めたいと思っています。

国連インターン応募編



(DPUBチーフアドバイザー 千葉寿夫)

オーストラリアで無事、修士を取得し、次は国連で就職と甘い期待を抱いていましたが、そんな簡単に就職できるわけもなく、まずはインターンに申し込むことにしました。でもどこに申し込めば良いのかすら分からなかったのも、国連のことを勉強する事から始めました。すると同じ国連でも、専門機関や関係機関など、様々な形態と役割があることが分かりました。ただそれでもまだピンと来ず、取りあえず、社会開発という大枠で、UNDP、UN本部、UNESCAPの3つに申し込みました。インターンの採用率は低いと聞いていたので、応募はしたもの、あまり期待できず、そろそろ現実的な就職先を考えないと... 思いながら、最後にタイを旅行して、日本に戻りました。

すると、UNESCAPから採用通知が来ていたので、国連アジア太平洋経済社会委員会、通称、UNESCAP。インターンに申し込むまで、その存在すら知りませんでした。しかも来週から採用と書いてあったので、すぐさま航空券を手配して、なんの準備もなくタイに戻りました。この時、留学時代のタイ人に色々助けた貰った恩は今でも忘れません。そしていよいよ、インターンとして国連に出勤する日が来ました。間近で見ると、まさにTVで見たような国連ビルがそびえ立っていました。「すげー、国連だ。」ただただ圧倒され、社会開発部に向かいました(つづく...)

2018.01.16

プロジェクトでは、物理アクセシビリティ向上に向け、道路運輸開発省とも連携して活動を進めています。そこで今回、バットエルデネ事務次官(左)とバットエルデネ法務課長(右)とお会いしてきました。事務次官は、鉄道や空港をアクセシブルにして障害者も利用できるようにしたい、また障害者雇用も実施したいと、意欲的に語っていました。そこで改めてプロジェクトについて説明し、障害平等研修を活用した意識改善が重要であることを伝えました。今後の運輸省との連携が楽しみです。



JICA DPUBのFACEBOOKページに「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページのいいねが1107件に達成し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

＼タイの障害者運動を紹介！／
～第4回若手障害者リーダー研修～

2018.01.25



勉強会の様子

皆さま、こんにちは。今日も寒いモンゴルですが、今回の勉強会のテーマは、南国、タイの障害者運動でした。タイは、千葉リーダーが5年間を過ごした縁のある国です。小さな自助グループが設立され、障害種別を超えた連合体であるタイ障害者協議会（Council of Disabled People of Thailand；通称DPIタイ）が設立され、積極的に国内の法律制定に向けた活動を開始するまでの経緯が紹介されました。タイでの障害分野の発展の鍵について議論がなされ、当事者リーダーたちの存在、諸外国の「知識」、そして、ドナーの上手な活用、などが上げられました。次回は2月21日、フィリピンです！お楽しみに♪

視覚障害のある人達への情報サポート
～ウランバートル市立中央図書館アクセシビリティ・テクノロジー・リソース・センターを訪問～

2018.01.30

1月29日、市立図書館を訪問しました。目的は視覚障害のある人々の情報技術を支援しているツェンゲルさんとの面会です。ツェンゲルさんは、ご本人も視覚障害を持っています。「どうやったら文字情報を入手できるか？、ITを利用するにはどのような方法があるか？」と長年研究してきました。今はNVDAというPCの文字情報を音声で聴くことができるソフトウェアのモンゴル語版を駆使して、ワードやエクセルなどの主要なアプリケーションを使い、ウェブサイトも閲覧しています。「他の視覚障害のある人達にもIT技術を伝えて、情報格差をなくしたい！」と語るツェンゲルさん。このセンターでPCの使い方を学んでいるロワサンさんは「NVDAを使って様々な情報にアクセスできるようになり、世界が広がりました」と情報技術の大切さを実感していました。



面会後の記念写真

障害者の自立生活の促進

2018.01.26

モンゴルでは、ユニバーサルプロGRESSなど、障害者の自立生活センターが設立されています。一方で、自立生活に必要な介助者を提供する社会保障制度の未整備が大きな課題となっています。そこで、日本の自立生活センターのメインストリーム協会が、モンゴルでもセンターを運営できるように、これまでもサポートをしています。そんな中、今回、モンゴルの現状をさらに把握するためにJICA・DPUBを訪問してくれました。我々からは、「モンゴル障害国別情報<<http://bit.ly/2FPkvsJ>>」を提供し、東南アジアなどの途上国と比べると、モンゴルは比較的社会保障制度が整備されていること。モンゴルの障害者は非常に活動的であることをお伝えしました。一方で、社会保障制度が整備されていると言っても、年金や手当の額は少なく、介助者費用を賄えるものでないこともお伝えしました。自立生活とは、「どんなに重度な障害があっても、『地域で当たり前暮らすこと。』、それは、人の意思や都合などで、自分の生活を左右されるのではなく、自分の意思で生活していくこと。行きていくこと。」です（メインストリーム協会のホームページより）。今後、この様な自立生活がモンゴルでも促進されることを期待しています。



最後に記念写真